

はじめに

この問題集は、入試の現代文における記述式問題（内容説明・理由説明）の解法だけに特化したものです。

私たちは、それぞれ東京と京都で記述式問題を出題する大学の対策講座を担当していますが、そのなかで「本文はある程度読めているだろうに、全く点数が取れない答案」を毎日のように目にします。これは自分では書けているつもりでも、相手に「伝わっていない解答」なのです。

記述式問題と言うと国公立大学の二次試験でしか出題されないように思っているかもしれませんが、今後は選択式の問題は減り、入試での記述式の重要性はどんどん高まっていくと予想されています。センター試験に代わる新テストの一部が記述式になりますし、小論文やレポートを課す大学も増えてくるようです。

記述式問題で大事なものは正解に至るプロセスです。そして正解へのプロセスは、誰でもきちんととどれる論理的なものです。本書を通して解答を書いたための正しい手順やプロセスを我が物にすれば、解答を書く際の迷いやつまずきはなくなるはずですよ。

記述式問題を制する者は、入試を制す。その意気込みでがんばりましょう！

この本の使い方

本書は、五部構成になっています。

第一部は記述式問題に取り組み前に知っておいてもらいたいことを簡潔にまとめたものです。

第二部「**公理**・**定理**・**細則**」は必ず熟読してください。記述式問題を解く際に重要なプロセスを最低限のルールと二つの「**図式**」を用いて、できるかぎりシンプルにまとめてあります。ここに示した考え方とプロセスは、どのタイプの設問にも基本的に対処できますが、ただ暗記すれば良いというものではありません。解答を導くための発想のしかたと手順を頭に入れるための実践的な方法です。これらを何度も繰り返し確認しながら問題を解くようにしてみてください。

第三部「**例題**」では、プロセスの手本を示してあります。手本通りに記入する欄を設けてありますので、そこに書き込んで、記述の解答を正しく作るプロセスを追体験してください。自己流で解くのではなく、**解法ナビ**で説明される**正解**への**プロセス**を一つひとつたどりながら、どうしてこういう解答でなければならぬのかを理解していくことが大事です。

第四部「**練習問題**」では、「**図式**」に書き込むことでプロセス全体を追えるように工夫しており、最後に自分で記述解答を仕上げるところまで至ります。「**例題**」で学んだことをもとに、**解法ナビ**の助けを借りつつ、自分で解答を作るプロセスを実践してみてください。その際つねに**公理****定理**を思い出しつつ、どの**公理****定理**をどのタイミングで使うかを意識してください。

最後に**第五部**「**実践問題**」にチャレンジしてみましょう。ここではまず自分で問題を解いてみてください。

第三部、第四部で踏んだプロセスを自ら「実践」できるかどうか、試してみましよう。第四部までの内容をきちんと踏まえていれば、入試レベルの記述問題でも自力で解答を作成できるはずですよ。

問題を見ていきなり解答を書く普通の問題集とは異なり、踏むべき手順・プロセスが多く、書き込む箇所もたくさんありますが、そうやって一つひとつ書き込むことが、プロセスを身につける最もよい訓練になります。飛ばさずにすべてのプロセスをたどってみてください。

なお、それぞれの問題文には**本文図解**がついています。本文の主張や論理の流れとともに、解法のプロセスをひと目で理解できるようにしたツールです。**解法ナビ**や**設問解法**に目を通しつつ、随時参照し、本文の内容や解法をヴィジュアルでも確認していきましょう。

本文図解の使い方

本書では、出題文の詳しい解説はあえてつけていません。一つめの理由は、それほど難解な文章は載せていないということ。二つめの理由としては、本文の要点に関わる箇所から出題される記述式の設問の部分をしつかり解くことで、本文の主旨を押さえられるということがあります。**本文図解**は、本文の要点を押さえ、それがどのように主張へと展開されるか、を図示したものです。本文をまず読んで、難しい、筆者の意図がわからない、と思うときは、設問に入る前にこの**本文図解**を見てもかまいません。見なくても大丈夫と思えば、解答のプロセスがすべて終わったあとに、自分の読み方を確認するために使ってください。

本文図解について

○上段には、本文全体を再掲しています。設問に関わる部分については、波線を引き、傍線部と矢印でつないで、解法を可視化しています。

○下段には、Ⅰ・Ⅱ……のローマ数字で「意味段落」の内容を簡潔に示し、①・②……の記号で、「形式段落」の内容を簡潔に示しています。最後に「要約」で趣旨をまとめています。

(Tは、Theme = 「主題」、Bは、Base = 「根拠」、Aは、Assertion = 「主張」です。)

目次

はじめに	3	
この本の使い方	4	
第I部 記述式問題に取り組みということ —「わかっているのに0点答案」からの脱出のために—	10	
第II部 公理 ・ 定理 ・ 細則	14	
第III部 例題	32	
例題1 「お金で買えないものがある？」	書き下ろし オリジナル	33
例題2 「思考術」	大澤 真幸	46

第Ⅳ部 練習問題

第一問 「蟬とジェットコースター」

書き下ろし
オリジナル

.....

60

第二問 「情報の文化史」

榎山 紘一

.....

70

59

第Ⅴ部 実践問題

第一問 「科学者と芸術家」

寺田 寅彦

.....

83

第二問 「レトリックを少々」

佐藤 信夫

.....

97

第三問 「人と人との間」

木村 敏

.....

110

第四問 「子どもと学校」

河合 隼雄

.....

123

第五問 「日本辺境論」

内田 樹

.....

141

第六問 「この瞬間を歴史に刻む」

金森 修

.....

159

第七問 「人間についての寓話」

日高 敏隆

.....

176

第八問 「日本の美、西欧の美」

高階 秀爾

.....

196

82